

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 B-5 生徒指導②を実施しました！

「子どものいのちを未来につなぐために

～今、求められる学校と教職員の役割～

【講師】 大和高田市立看護専門学校 非常勤講師 阪中 順子さん

8月3日(月)、「生徒指導②」の講座を実施しました。昨年度に引き続き、子どもたちの自殺予防の観点で、ペアワークやロールプレイも取り入れながら、ご講演いただきました。冒頭、阪中先生は「自殺予防は『学校の責務』である」と話されました。

子どもたちの自殺の動機の上位には「学業不振」があり

ます。その動機から「①わかる授業の創造・学力保障 ②

できないことを認めること ③思いつきやまちがった意

見を伝え合える仲間・空間づくり」が予防になるとご教示いただきました。

「言えない・言わない困りごと」を「**き**づいて **よ**りそい **う**けとめ

て **ん**らいできる大人に つたえよう」とする子どもたちを「いのちの危機について考える(いのちと向き合う)」授業を通して育てていくことも大切であると話されました。その「信頼される大人・安心してもらえる大人」にわたしたち教職員がなるために、子どもたちの話を共感的に受容することや言動面等で日頃との違いに「気づく」ことが大切です。阪中先生は「『孤立』は自殺のキーワード」と話されました。孤立と孤独が子どもたちを追いつめるのであり、その緩和や克服には人が必要であるということです。子どもたちと多くの時間を共にするわたしたちだからこそ絆を深め、変容に気づくことができると思います。「『絆と気づき』が自殺予防の第一歩(精神科医：高橋祥友)」。

子どもたちのいのちを未来につないでいくために、胸に刻み続けたい言葉です。

ご参加いただいた先生方には実践に活かしていただくとともに、各校で還流していただきますよう、お願いいたします。



アンケートより【一部抜粋】

・「弱みを見せることが強さ」この言葉を子どもたちに伝えたい！子どもの命を守るために、子どもの変化を見守りながらSOSに気づき、共感しながらかかわっていききたい。安心して悩むことのできる環境をつくりたい。保護者支援のためにも、専門的なかわりをしていくためにも、早めに他機関との情報共有や連携を密にしていきたい。【小】

・ロールプレイで辛い立場にある人とその友だち役に分かれてやってみることで、感情理解の大切さがよくわかりました。辛い時に正論を言われたり、「もっとがんばれ」と言われたりすると、余計にしんどくなって負の連鎖になってしまいました。自分の気持ちに共感してもらうことで少し安心しました。今後、実践していきたいです。【小】

・普段の子どもとの関わり、変化に素早く気づくこと、そしてヘルプを言えるような関係性にならなくてはいけない、また日々の学級経営の中で子どもたち同士がしんどさや辛いことも共有できるようななかまづくりをしていかななくてはならない。今回学んだことを結びつけながら子どもたちと接していきたい。【中】

・ロールプレイの機会がたくさんあり、言葉に出すことの重要性を知りました。悩むことも多いですが、少しずつ行動していきたいです。「わかるわかる」と言ってしまうがちですが、「わかる」も相手を傷つけてしまうことに気づきました。安心して大人でありたいと思います。【中】